



茗溪 かながわ

MEIKEI KANAGAWA

NO.17

発行 神奈川茗溪会（旧 茗溪会神奈川支部） 発行者 大畑多津雄

令和3（2021）年 6月

コロナ禍に我慢の時間が続く

神奈川茗溪会会長 大畑 多津雄

昨年度に続き猛威をふるつ新型コロナウイルス。神奈川茗溪会の活動も大きな打撃を受けた。「コロナは人と人との結びつきを分断する」と言われるが、まさに会員相互のコミュニケーションが難しくなり、言いようのない不安感に覆われる毎日が続いている。

「顔色を窺う」というのは、どちらかというあまりいい意味で使われてこなかったように思う。しかし昨今のICTを介した遣り取りを進めていると、「顔色を窺い」ながらコミュニケーションをするからこそ、会話にのせて時には熱い思いを伝えたり、時には教科の内容を教え込んだりしてきたことに、今更ながら気づかされる。

生徒がわからないような顔をすれば、繰り返し説明する。それでもだめなら別の表現に直して繰り返す。そうした会話の基盤には相手の顔色を窺いながら気持ちを理解し、話を進めていくという「思いやりの心」があった。理解しあえる」とか「分かり合える」という現象は、そうした気働きが、すなわち人間の優しさがあったからこそできることだと思ふ。

人は相手の顔を見ながら話してこそ、伝えたい内容が相手に正し

く伝わり、理解されたときには大きな喜びを感じる。会話を通して互いに優しさを感じあえるからこ

朋友を偲んで

森戸 努（s52教大数）

そ、人は人と交わろうとする。自分もそうした喜びに突き動かされて教職を全うすることができた。だからこそコロナが下火になり、この制限された空間から解放されたら、仲間と顔を突き合わせ、相手の顔色を窺いながら大いに会話を楽しみたいと思う。明けない夜はないと言う。そんな日常が帰ってくることを楽しみにして、今は我慢しようと思ふ。

宮代哲彦さん（昭51教大漢）が一昨年の暮れ、癌のため亡くなったことを知ったのは、私が最初に勤めた県立高校の会報で、大変ショックを受けました。彼とは初任校で出会い、主に音楽関係の仕事で協力し合いましたが、その後、奇遇にも高校教育課の指導主事として再会し、切磋琢磨し合った二年間を今でも忘れることはできません。とりわけ、当時、世の中を震撼させた大阪教育大附属池田小の

児童殺傷事件を契機に生徒指導担当セクションが課内に新設され、私は班長を任せられました。県は急遽、九月に補正予算を組み、私たちは全公立学校配付用の「安全管理マニュアル」を作成、広く啓発する業務に専従しました。また、学校の要請により出勤する緊急支援チームを結成するなど、目まぐるしい一年を過ごしました。そんな私たちの班の中にあつて、いつも変わらぬ冷静な姿勢で私を支えてくれた頼もしい一人が彼でした。

翌年、私が統合されたばかりの総合教育センターに転勤となった際には、班員が贈ってくれた色紙に『攀轅臥轍』（はんえんがてつ）という餞の言葉を書いてくれました。彼と一緒に困難を分かち合えたあの一年は、私にとって何物にも代え難い貴重な日々でした。今、改めて当時のことを思い返すと、お互いに大学の同窓で同年令、さらに初任校で長く同僚という間柄だったこともあつて、何も語らなくとも通じ合える信頼感を、心のどこかに忍ばせ、見えな

い絆で結ばれていたような気がします。亡くなってから半年も経て彼の死を知る己の無粋さを恥じ、言い知れぬ悲愁感が込み上げますが、今はただ、心よりご冥福をお祈り申し上げたいと思ひます。合掌！



右1人目が宮代氏、中央が筆者（平成13年）

茗溪の水

神奈川に来て

四十年・感謝

大石 進

(S 56 筑体)

生まれは佐賀県、育ちは山口県、一度は東京へ出てみたいと思いい、蛭雪時代を頼りに筑波大学体育専門学群を受験、でも筑波は茨城県でした。関東学生ハンドボールリーグ戦では、試合の度に常磐線で東京へ「なんだっぺええ」という地元のおぼちゃん達の会話を耳に「うーん、俺は東京に来たつもりだったが・・・」今では笑い話、良き思い出です。

大学卒業時、地方の教員採用は厳しい状況にあり、高校百校計画に誘われ神奈川県へやって来ました。知らない土地でのスタートでしたが、行く先々で茗溪の先輩方に温かな声をかけていただき大きな支えとなりました。そして、平成三十一年三月、平成の時代が幕を降ろすのと同時に退職いたしました。改めて、お世話になった諸先輩方に御礼申し上げます。

専門のハンドボールの指導は、厚木東高校の三年間のみで、ハンドボール界に対して申し訳ない思いがありました。城山高学校長時代に県高体連ハンドボール専門部長を務めさせていただき、少しは恩返しできたかなと思っています。時代は令和に入りましたが、東京オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルス感染症の拡大で延期になりました。少し前になりますが、NHK大河ドラマ「いだてん」を毎回楽しみに観ていました。金栗四三選手や嘉納治五郎先生といった偉大な先駆者がおられ、日本の体育・スポーツに茗溪が果たして来た役割、その歴史に驚かされました。自分も微力ながらこれからの時代を担う若い人



達に、何かを伝えていきたいと考える今日この頃です。

そして今、神奈川茗溪会の事務局長という立場にいます。大畑会長が①会員の拡充と組織の活性化、②教員中心の組織からの脱却という二つの課題を掲げられていますが、なかなか特効薬のようなものはありません。まして、このコロナ禍、神奈川にいる茗溪の仲間には地道に声をかけ、掘り起こしていくしかないのかなと思っています。皆さんも是非ご協力お願いします。

今も流れる筑波

大学時代の記憶

佐藤 教道

(S 56 筑人文)

筑波大学四期として入学し、人文学類に所属して英語学を専攻しました。当時の指導教官が言語学をやるなら古典語の初級ぐらいは取るように、との助言をしてくれたのがきっかけで、ラテン語初級の授業に出たのが運の尽き。古典語の世界にすっかり入り、都合四年間、専門そつちのけでギリシア・ラテンの世界にうつつを抜かしました。故・柳沼重剛先生の研究室でカトウルの詩やプリニウスの

書簡、オウイデイウスの物語などに魂を遊ばせた至高のひとつを今でも思い出すことがあります。

卒業後に英語教員となった後、雑談の大家でいらっしやっした柳沼先生の薫陶にあやかると、本を読み、寄席に通い、授業では折あるごとに古典その他の余談をふんだんに披露しました。当時の生徒からはとても喜ばれ、ある学校を去る時の離任式、体育館で生徒達が大勢駆け寄ってきて、「雑談ありがとう！と叫びながら胴上げをしてくれたことを覚えています。



筑波大学での楽しかった時間の記憶が意識の隅の下を滔々と流れ続けている。そんな思いがしています。

時は流れ、一昨年三月、ついに定年退職となりました。新たな学校へ移り、再任用校長として引き続き現役として勤務しています。

す。疲れている暇はありません。フレッシュな気持ちを持ちながらもうひと頑張りしようと思わ言いつ聞かせています。

宣揚歌の「名のみなる廃墟を捨てて」というくだりがいつも頭にあります。伝統校や歴史のある集団の中では、伝統なり歴史なりに守られていけば、あまりものを考えることのない日常を送ってしまうというの、ままあることでしょう。しかしながら、長い歴史のある大学の同窓会であっても、前をみて革新的な気持ちを持ち続けることが重要だとも思っています。

AE えびあや 検索

AE 海老名・磯瀬法律事務所
弁護士 中道 徹 (神奈川県弁護士会)

お気軽にお問合せください！
046-205-3780
〒243-0432 海老名市中央1-8-3 えびすビル4階

親身に対応します

茗溪の水(2)

新採用の気持ち で再任用を

石川 裕子

(S57筑二人間)

令和二年三月末、卒業式や合唱祭など様々な行事を無事終え、活気あふれる生徒たちに囲まれ、私は教員としてのゴールを迎えるはずであった。しかし、現実とは違っていた。猛威を振るいだした新型コロナウイルス感染症のために、一斉休校が行われ、学校に生徒の姿がない中で、私は静かにゴールインした。「学校とは生徒の声にあふれているもの。」と常に思っていた私としては、寂しいゴールであった。

この原稿を書くに当たり、改めてこれまでの教員人生を振り返ってみた。

筑波大学在学中は、好きなテニスに明け暮れた生活だった。練習後も夜通し語り合ったその時の仲間が、その後、様々な課題を共有できる財産であったことを今改めて感じている。教員としてスタートを切ってから、神奈川茗溪会の皆様との繋がりに感じ、この大学を卒業できたことに感謝している。特に、

教員としての視野を大きく広げてくださった元上溝南高校山田校長先生、元城山高校大石校長先生には改めてお礼を申し上げます。教諭として五校、管理職として四校を経験した。辛いことも沢山あったが、今振り返ると楽しかったことばかりが思い出される。「手のかかる子ほどかわいいでしょ。」と言って卒業していった生徒たちがいた。本当に苦勞させられたが、教員としてのやりがいや人間の成長に関わる喜びを感じたのもやはりそのような生徒たちとの関わりの中であつたかもしれない。

管理職になってからは、ジェットコースターに乗っているように感じることも度々あった。順調に業務ができていくかと思えば、様々なことが同時に起こって、制御できない状況になる。そのような時支えてくれたのは、同じ課題を共有にした仲間に加えて、これまでの教員人生の中で、『辛い・厳しい』と感じた経験であつた。

私は現在神奈川県教育委員会に勤務している。人生初めての行政職である。現場を離れることで、新鮮さを感じながら、新採用のような気持ちで再任用をしている。退職したら大好きな茶道と旅行を思う存分にと思っていたが、これもコロナに邪魔さ

れ現在は封印中だ。その代わりに、日本大通り周辺の素晴らしい風景や今まで気づかなかつた横浜の歴史を昼休みの散歩の中で見つけ、楽しんでいる。

コロナは教育も大きく変えた。オンラインの活用が急速に進み、あつという間に時代に取り残されてしまったという思いが日に日に増してきている。しかしながら、時代が変わっても、人との関わりの中に教育はあると信じている。何らかの形でこれからも関わっていかれると思っている。



神奈川で開かれた 茗溪の集い

第4回 ゴルフコンペ

11月16日(月) 秦野市にある太平洋クラブ相模コースで、第4回茗溪会親睦ゴルフコンペを開催しました。当日は天候にも恵まれ、緑の多い自然の中で気持ちよくプレーを楽しむことができました。

この会も4回目となり、今年もさらに茗溪の新たな先輩を迎え、年齢・職種いろいろな方と親睦を深めることができました。私的には今回のゴルフコンペを機に、今回出会えた先輩と別の機会にゴルフで一緒にすることもできました。

来年も同じ時期に開催する予定です。参加を希望される方は、9月末までに大畑まで連絡をお願いします。

(電話) 090・454400682
実施日等予定が固まりましたら連絡をいただいた方々にご案内させていただきます。

(文責) 大畑多津雄 S52教教

- 【1組】
鈴木克己(S39教生) 坂本紀典(S51教健) 中野孝一(S50教体) 大畑多津雄
- 【2組】
新木康稔(S41教体) 安藤彬(S38教体) 水江彰一(S37教英) 来山隼生(S39教農経)
- 【3組】
大辻昇(S42教総農) 高橋正一(S42教総農) 落信久(S43教体)
- 【4組】
熊澤茂(S45教農工) 加藤好美(S37教農工) 岩本毅(S35教農)



第9回若手交流会『ミニプレゼン会』（会場及びオンライン開催）

令和2年11月21日（土）18:00～20:00 既に8回の実績ある若手交流会ですが、コロナ状況下での開催について、若手のスタッフは悩み考え抜きました。そして「9回目を繋ぐことに意義がある！」と、感染防止対策を徹底しオンライン発信での開催を決めました。恒例の会場中華レストラン「大陸」の一室には5人のみ（若手交流会とりまとめ・森麻夫氏、オンライン技術担当・鈴木孝明氏、プレゼンター・合田浩之氏、会長代行・加藤充洋氏、新泉組から井上知哉氏）が集まりました。

ミニプレゼン会の題名は『ダイヤモンドプリンセス号』でした。船舶航行の国際法などが専門の合田氏（東海大学教授）ですが、今回は素人にも興味を持って、しかも分かり易い内容でお話をしてもらいました。ダイヤモンドプリンセス号は日本におけるコロナ騒ぎの発端であるクルーズ船でした。

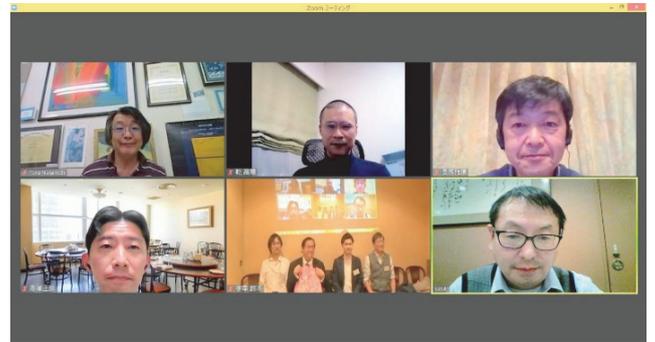
テレビ等では知ることができない、船主・船員・船籍の関係、乗船検疫、感染を船内で拡大させてしまった船



の空調構造などについてプレゼンしてもらいました。タイムリーな話題でしたし、面白かったので、あつという間に時間が過ぎてしまいました。

会場に来られない参加者はZoom参加。画面に向かって何やらやっているパパに興味がわいてお子さんが画面に登場したり、画面の向こうでも乾杯したりという感じで、楽しい雰囲気が進めることができました。

写真は発信を行った「大陸」の一室



事務局長	大石 進 (s56 筑体)	090-1536-1745	ssuoishi-5812.syk@docomo.ne.jp
川崎地区【川崎市】			
委員	西村 宗一郎 (s51 教大植)	045-362-7010	
委員	南 敏章 (s52 教大数)	045-945-2086	
横浜地区【横浜市】			
委員	佐々木 悦子 (s46 教大体)	045-784-0670	
委員	望月 正大 (s51 教大数)	045-812-0281	
横三・湘鎌地区【横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、三浦郡、茅ヶ崎市、藤沢市、高座郡】			
委員	鈴木 彰 (s49 教大地)	0467-52-5354	
委員	瀬木 明 (s52 教大応数)	090-1040-3612	
平秦・西湘地区【平塚市、小田原市、中郡、足柄上郡、足柄下郡、南足柄市、秦野市、伊勢原市】			
委員	細谷 俊一 (s47 教大生化工)	0465-77-2046	
委員	山田 和彦 (s53 教大農)	046-288-1560	
北相地区【厚木市、海老名市、綾瀬市、大和市、座間市、相模原市、愛甲郡、神奈川県外】			
委員	大島 恵子 (s46 教大植)	042-715-0317	
委員	本木 幹雄 (s50 教大体健)	090-3817-3402	

会員計報（令和元年以降）

竹内 晟 (s31 教大数)
 中村 昭 (s25 高師文二)
 平松道生 (s34 教大経)
 藤本克巳 (s13 高師理三)
 宮代哲彦 (s51 教大漢)
 平島 明 (s24 高師理三)
 加藤正夫 (s32 教大哲)
 福井正信 (s28 文理動)
 磯崎信男 (s29 教大農)
 西川英雄 (s37 文理理一)
 崎山万平 (s37 教大農化)
 白須和子 (s35 教大英)
 宇野 勝 (s42 教大体)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

【事務局より】

コロナ禍、昨年秋に発行を予定していた会誌「茗溪かながわ」は、諸般の事情で発行を取りやめました。ご心配をおかけし、誠に申し訳ありません。なお、会員の皆様からの寄稿を随時受け付けております。是非、事務局までお寄せください。